

# 少年少女球技大会 キックボールルール

## 1 チーム

### (1) 登録（ベンチに入れる者）

総責任者（大人）	1名	黄リボン
監督（中学生以下）	1名	青リボン
コーチ（中学生以下）	2名以内	緑リボン
キャプテン（小学生）	1名	赤リボン
選手（小学生）	22名以内	

※ただし、試合に出場できるのは、20名以内とする。

縦15cm以上、横18cm以上の背番号をつけること。

リボンは左胸につけること。

※ 背番号及びリボンの着用については、安全ピンは使用しないこと。

(2) ベンチに入る者は必ずスポーツウエア、運動靴を着用するものとする。この場合、サッカーシューズの使用及び厚底靴は禁止する。

(3) 先発メンバーは、10名とする。（ホームキーパー1名、野手9名）

(4) リエントリー（再出場）ルールを採用する。

(5) 指名キッカー制（DH）は採用しない。

## 2 競技場

(1) 塁間は1.6mとし、キックボックスは、本塁から4m、幅1mとする。また、守備ラインは、本塁から半径8mの位置

とする。

(2) ホームベースは直径39cmの円形ゴム板で中央に5cmの穴のあいた厚さ12mmのものとする。

## 3 用具

試合には、日本フットベースボール協会公認球のMIKASA F2-CR（2号球）を使用し、空気圧は0.4kgf/cm<sup>2</sup>（0.392bar・392hpa）とする。

## 4 試合

(1) 試合は、7回戦とする。ただし試合時間は50分（決勝戦も同様）で打ち切りとし、試合途中の場合は、その回までとする。

(2) 5回以降で15点以上の得点差がある場合は、コールドゲームとする。

(3) ただし、決勝戦については、コールドゲームは適用しない。

(4) 試合終了時同点の場合は、次の方法により勝敗を決めるものとする。（タイブレーカー方式）

ノーアウト二塁の状態で攻撃を行い、走者はその前の打順の選手とする。

(5) 試合及び判定に関する抗議は、監督・キャプテン（主将）ができるものとする。「タイム」は、選手全員と監督・コーチが要求できるが、必ず審判に申し出て許可を受けなければならない。

※ 「タイム」とは、審判が試合の中断を宣告するときのことばで、審判が「タイム」を宣告して初めて成立する。一回のタイムはおおむね1分以内を目安とする。

## 5 キッカー（キックする者）と走者

(1) キッカーは、あらかじめ提出した先発メンバー表に従ってキックしなければならない。

(2) キッカーがアウトになるときは、次のとおりとする。

- ① キックしたボールをノーバウンドで直接とられたとき。
- ② 一塁へ行くまでにボールを当てられるか、一塁手が一塁ベース（白色ベース）に触れている状態でボールを早く受け取ったとき。
- ③ ファウルを3回けたとき。
- ④ キックする順序を間違ったときは、相手チームのアピールがあった場合に限り、そのプレイは無かったものとされ、キッカーはアウトになる。次のキッカーは正しい順のキッカーとする。

(3) ファウルは次のことをいう。

- ① 一塁（白色ベース）及び三塁ベース手前で、ボールがダイヤモンドの外へ出たとき。
- ② 空振りしたとき。
- ③ キックボックスのラインを踏んだとき。ただし、キックの最後の一步（軸足）は踏み越してもよい。

(4) 走者がアウトになるときは、次のとおりとする。

- ① ベースにつく前に送球を当てられたとき。

② 走者自身が打球にふれたとき。

走者が打球にふれたときは、ボールデッドとなり他の走者は進塁できない。

③ フォースアウトになるとき。

④ キッカーがボールをける前に、走者がベースから離れたとき。

(5) 野手が送球を走者に当てた場合、走者はアウトとなるが、試合は続いているものとする。

〔ボールインプレイ 5-(2)-②・5-(4)-①〕

(6) 走者は、次の塁を踏む前にボールを本塁におかれた場合には、前の塁までもどらなければならない。

(7) 送球・走者に当てた送球・野手に当たった打球が境界線の外に出たときは、ボールデッドとなり、キッカー・走者には、2個の安全進塁が与えられる。この場合、ボールデッドとなった時点の走者の位置を基準とする。

(8) ファウルでない打球が野手に触れずに境界線の外に出たときは、エンタイトル・ツーベースとする。

## 6 守備

(1) 野手は、キッカーがボールをける前に守備ラインの中に入ることができない。野手が守備ラインに入った場合、キッカーへの打撃妨害を適用し、キッカーには一塁への安全進塁権を与える。ただし、2塁打以上の長打になった場合、又は走者が2つ以上進塁した場合には打撃妨害は取り消される。

(2) ホームキーパーは、守備の準備が出来たら、キーパーサークルの中に入ること。主審は入ったことを確認し、「プレ

イ」を宣言する。

7 ダブルベースは、一塁の守備者とキッカーとの接触等の危険防止のために用いるベースで、白色ベースはフェア地域に、オレンジベースはファウル地域に固定する。

(1) キックしたボールが内野にいった場合に、キッカーが最初に一塁を走り抜けるときは、オレンジベースに触塁しなければならない。(触塁しなければ一塁に触塁したとはみなさない)

(2) 一塁ベースを走り越した後は、キッカーは白色ベースに帰塁しなければならない。

(3) キックしたボールが内野を通過する打球を打ったときは、白色ベース・オレンジベースのどちらに触塁してもよい。

(4) キックしたボールが内野を通過した場合または外野へいった場合で一塁を回り二塁をうかがったときは、白色ベースに帰塁しなければならない。

(5) 一塁走者が飛球でタッチアップするときは、白色ベースを使用しなければならない。

(6) いったん白色ベースに帰塁した一塁走者が、オレンジベースのみに触れているとき。

① 触球されれば、触塁しているとはみなされず、アウトである。

② キッカーがボールをける前及びけった後に、オレンジベースから離塁したときは、アウトである。

(7) 守備側のプレイヤーは、常に白色ベースを使用しなければならない。

ただし、一塁側のファウル地域からプレイする場合は、キッカー・守備者は、白色ベース・オレンジベースのどちらかを使用してもよい。

(8) キックしたボールが白色ベースに触れたときはフェアボール、オレンジベースに触れたときはファウルボールである。

## 8 再出場 (リエントリー) ルール

スターティングプレイヤーは、いったん試合から退いても、いつでも一度に限り「再出場」できる。ただし、自己の元の打順を受け継いだプレイヤーと交代しなければならない。

## 9 打ち合わせ

### (1) 守備側の打ち合わせ

打ち合わせは、監督(監督がいなときは主将、監督・主将がいなときはコーチ)が審判に「タイム」を要求して行なわなければならない。

① 打ち合わせは、1回から5回までの間に3度、5回以降は、1イニング中一度に限り行うことができる。

② 攻撃側の打ち合わせ中、守備側が打ち合わせをしたとしても、それは「打ち合わせ」とはみなさない。

③ 「タイム」を要求しないで打ち合わせをしたときは、審判の判断により遅延行為として「打ち合わせ」とみなされる。

### (2) 攻撃側の打ち合わせ

打ち合わせは、監督(監督がいなときは主将、監督・主将がいなときはコーチ)が審判に「タイム」を要求して行

わなければならない。

- ① キッカーまたは走者との打ち合わせは、1回（1イニング）中一度限りである。
- ② 守備側の打ち合わせ中、攻撃側が打ち合わせをしたとしても、それは「打ち合わせ」とはみなさない。
- ③ 「タイム」を要求しないで打ち合わせをしたときは、審判の判断により遅延行為として、「打ち合わせ」とみなされる。

## 10 ベースコーチ

ベースコーチは、コーチボックス内で自チームの攻撃中に助言や指示を与えることができる。（2人のベースコーチのうち1人は、コーチボックス内に記録のための用具を持ち込んでもよい。）

## 11 審判

審判は、各青少年対策地区委員会から推薦された審判団と、各町内会・自治会から推薦された審判員で行う。

## 12 その他

試合進行にあたっては、安全を最優先させる。プレイ最中でも、プレイヤーに緊急処置を必要とする事故等が発生したときは、審判はただちに「タイム」を宣告する。

この場合には、審判は、協議のうえ、「タイム」を宣告しなければ達していたと判断されるだけ走者を進塁させるものとする。

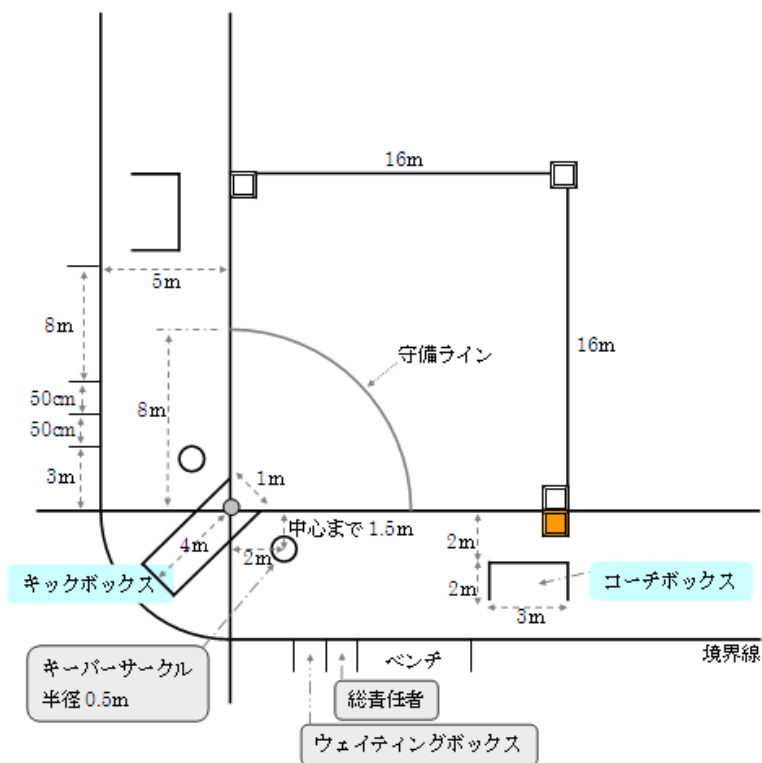
## 代替プレイヤー（リプレースメント プレイヤー）特記事項

軽度の出血で治療すればおさまるような場合、一時的にその試合を離れるプレイヤーに代わって臨時に出場することが認められたプレイヤーをいう。

- ① 出血したとき、その試合に出ているプレイヤー以外の控えのプレイヤー。
- ② すでに交代して試合から退いたプレイヤーでもよい。
- ③ 違反行為で退場または除外されたプレイヤーは、代替プレイヤーにはなれない。
- ④ けがをしたイニングから次のイニングの終了までの間、試合に参加できる。
- ⑤ 代替プレイヤーの途中での交代はできない。
- ⑥ 代替プレイヤーとしての試合への出場は、正式な交代とは異なり試合出場や再出場の権利を妨げない。

このルールはあくまでも出血による交代であり、審判の権限として行うものとする。

## キックボール競技場区画線図



- ※ 区画線は 5cm 幅のラインとする。
- ※ キーパーサークルの半径は 0.5m とする。
- ※ 守備ラインは線のホーム側に、キーパーサークルとコーチボックスは線の内側に、その他の線はコートの内側に区画線を引く。

この競技ルールは、2010 オフィシャルソフトボールルールを基本に、羽村市青少年対策地区委員会連絡協議会（キックボール審判団）、羽村市子ども家庭部児童青少年課で、調整、協議の上、「羽村市少年少女球技大会」用に作成したものです。

2011年5月作成

編集 羽村市青少年対策地区委員会連絡協議会  
 (キックボール審判団)  
 羽村市子ども家庭部児童青少年課  
 印刷・製本 羽村市青少年対策地区委員会連絡協議会  
 羽村市子ども家庭部児童青少年課